



# 星川だより



## 熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

熊谷空襲の戦跡巡り、今年はいくつかの団体や高校生、一般市民など多くの方々を案内しました。本号は、この秋実施した戦跡巡り参加者の中から小暮健太さんに寄稿いただきました。



空襲の焼け跡を今に伝える中家堂さんの石灯籠  
この日はご主人に説明いただきました。

### 戦跡めぐりに参加して 小暮 健太

10月8日に熊谷空襲を忘れない市民の会の皆さんのガイドのもと、空襲の戦跡を踏査する「熊谷平和研修」を開催しました。私はJR東労働組合（ひがし労）で青年部の役員をしています。この間、ひがし労は「安心して働くことが出来るのは平和な社会であること」という考えから過去の戦争について学ぶ研修を開催してきており、私自身沖縄、広島、長崎といった地に足を運び、過去の戦争で市民や我々労働者が犠牲となった事実を学び、戦争行為に反

対する想いを強めてきました。しかし、そんな私の想いに逆行するように、ロシア・ウクライナ戦争は泥沼化し、さらにイスラエル・パレスチナ問題が勃発しています。岸田政権はこのような国際情勢や中国や北朝鮮、台湾有事などを理由に「防衛のため」を名目に憲法の改悪を行うのではないかと懸念しています。そのような中、組合員や家族にも戦争や平和について考えてもらう場として、平和研修の開催を模索している時に、「市民の会」の活動を知り、私としても地域の歴史を学ぶ方が、より戦争について身近に考えることが出来るのではないかと思います。米田さんと連絡を取らせていただき、「熊谷平和研修」を開催する運びとなりました。

私自身、熊谷空襲について知っていることといえば、1945年8月15日の未明に行われたこと、第二次世界大戦における日本への最後の空襲の一つということくらいでした。今回の戦跡めぐりでなぜ熊谷市が空襲対象として選定されたのか、4つの説について教えていただきました。いずれの説もそこで暮らす市民のことは考えられてはいないと感じましたし、集束焼夷弾の使用は「工場の所在が分からないため」と言



8月12日開催の大学生と戦争体験者によるパネルディスカッション。この日は一般参加者の他、多くのマスコミ関係者が取材に訪れた。

りして御礼申し上げます。

### 八月のマスコミ取材

米田 主美

今年は敗戦後78年目を迎えた。

8月14日に生まれた私はこの日が巡ってくる度に年齢を重ねるわけだが、今年はなぜかたくさんの方のマスコミから取材の申し込みがあった。

先ず7月10日、NHKさいたま放送局の二宮舞子記者が熊谷まで訪れた。アズで2時間余りの話をした。話をしていると「最後の空襲 熊谷」の本を読んでいるとのこと、以前取材された共同通信の大森記者とも知り合いだということでした。

が弾んだ。だが、番組ありきではなかった。私の話を聴いて番組にするか決めるようだ。7月29日東京公労協のツアーが予定された日、テレビクルーも一緒に取材が入った。ツアーの人たちも快く受け入れてくれ、番組作りは本格的に行われると思った。

8月3日には、毎日新聞から取材の申し込みがあった。これは私の父が陸軍士官として熊谷飛行学校で教官をしていたことから、特攻で逝った父の遺品や私の心情に焦点があてられたものだった。

8月8日には、ニッポン放送から取材の申し込みがあった。これは電話とパネルディスカッションの日の取材となり、8月16日の上柳昌彦の「あけの語り人」の番組で放送になり、

7月24日亡くなった森村誠一さんの話とともに金子兜太さんからも会にエールをいただいた話も出てくる。

8月12日、当会主催で「戦跡めぐりをして、街の傷跡から未来を考える」と題して、緑化センターで戦争体験者、大学生とのパネルディスカッションを行った。この日は、NHK、ニッポン放送、毎日、東京、埼玉の新聞各社からの取材があった。

8月14日には、再びNHKからの取材が星川の戦災者慰霊の女神像の前で行われた。取材後、二宮記者から16日の「首都圏ネットワーク」と17日の「おはよう日本」で放送になると連絡があった。その後、反響も多かったようで、29日の「ひるまえほっと」でも放送された。

例年がない酷暑と言われる中で、カメラが入るNHKの取材にはその暑さが身に伝えたが、これだけ多くのマスコミの注目を浴びたのは、2015年から8年間の取り組みしてきた「熊谷空襲を忘れない市民の会」の活動の成果であり、私の出自がマスコミの関心を寄せたということであろう。この一年ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。



石上寺にて、顔の焼けた弘法大師像(秘仏)など空襲について、ご住職から説明を受ける戦跡巡り参加者。

### 短歌二首

重富 初美

石上寺の 焼け焦げし顔の  
大師像 語り部となりて 平和願わん

石灯笼は 熊谷空襲で 焼け  
こげし 物言わずして 未来をみつむ

鈴懸の木 戦禍をくぐり 校  
庭に 今も生徒ら 見守つて  
いる

熊谷の 街を歩いて 発見の  
陸軍の文字の 境界石  
(戦跡巡りに参加された重富さんと樋口さんからの投稿です)

### 小林留美子さんを偲んで



昭和七年、吉岡生まれ。九月十八日逝去(91歳)  
留美子さんは「聞いて下さる方がいらっしやってお話できるのは幸せなこと。もう少し

頑張れそうよ」と、いつも笑顔で、戦争体験を生き生きと語って下さった。

児童だけで勤労奉仕の農作業、灯火管制の見回り、兵隊さんへの千人針・慰問袋作り。そればかりか本土決戦のための軍事訓練もやった。「写真はこれ一枚きりよ」という入学式の時の可愛らしい洋装のお嬢さんがお国のために銃後の守りを担って、「いつもお腹をすかせていました。神風は吹くと信じていたし、なんの疑問も持ちませんでした」。

当会が発行した「最後の空襲熊谷」の本作りで小川高校社会研究部の生徒達にインタビューを受けた際には、「しっかりと学んで下さい。若い時に覚えたことは忘れません」と、呼びかけていた。

戦争で優秀な人たちはみんな死んでしまったから今は酷い政治家ばかりになってしまつてと憂えながら、戦争の怖さを自然体で語る留美子さん。晩年、病気で目が不自由になつてもハンディは感じさせず、記憶力は抜群、CDブックで読書、サークルにも所属し明るい人柄で、お宅にお邪魔するのは楽しかった。骨折後、退院に向けリハビリ訓練中だったのに、もう会えないなんて。ご冥福を祈ります。(小川美穂子)

### 12月8日に思う

2014年12月8日、日本軍が英領マレー半島コタバルに上陸、続いてハワイ真珠湾を攻撃、英米に宣戦布告した。日中戦争から太平洋戦争へ拡大し、アジア全体では2000万人以上が犠牲になっている。これに対して私たちは自ら責任の所在を明らかにせず、戦争を遂行した者たちを罰してこなかった。誰も責任を取らない体質は現在にも引き継がれている。

2000年12月8日、ジョン・レノンがニューヨークのダウタ・ハウス前で射殺された。この時期クリスマスソングが街にあふれる。ジョンのHappy Christmas (War is Over)も定番だが、今年には特に心にしみる。ウクライナもガザも一向に終結の兆しが見えない。クリスマスそして新年を迎えるにあたって、みんなでお歌おう!

♪ War is over If you want it ♪ (吉田庄一)



年明けの熊谷平和講座は、イスラエル・パレスチナ問題を取り上げる予定です。(2024年2月4日13時30分;熊谷市民活動支援センター)

### 会計報告 (2023/9/1~12/13)

収入: 5,700円  
支出: 13,837円  
残高: 61,230円

編集委員 吉田庄一、小川美穂子、米田主美  
連絡先 吉田庄一 (090-4957-9181)  
メール imajin241@gmail.com  
HP <http://www.peace-kumagaya.org>